

第10回沖縄県教育委員会会議（定例会）

1 日時 平成24年 8月15日 15時00分～16時20分

2 場所 教育庁第1会議室

3 出席者

委員	安次嶺 委員（委員長） 中野 委員 新垣 委員 安里 委員 宮城 委員 大城 委員（教育長）	（欠席委員）
教育 庁	統括監等	教育管理統括監、教育指導統括監、参事
	課長及び 班長等	総務課長、財務課長、施設課長、福利課長、 県立学校教育課長、義務教育課長、保健体育課長、 生涯学習振興課長、文化財課長
	職務のため 出席した者	（事務局） 総務課総務班班長、同課総務班主任（2名） 県立学校教育課人事班主査
4 傍聴した者 <p style="text-align: center;">記者2人 / その他1人</p>		

平成24年第10回県教育委員会会議（定例会）

（開会15:00）

委員長	ただ今から平成24年第10回県教育委員会会議・定例会を開催します。 はじめに会期の決定を行います。本日1日を予定しておりますが、よろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 次に第9回会議録の承認を行います。新垣委員お願いします。
新垣委員	正確に記載されております。
委員長	正確に記載されているとのことですので、承認してよろしいでしょうか。
各委員	異議なし。
委員長	このとおり決定します。 今回の会議録署名人は、安里委員にお願いします。
安里委員	はい。
委員長	次に教育長報告に入ります。報告1について説明をお願いします。
教育長	（教育長報告1の説明） ・「英語立県沖縄戦略推進事業」に係る国際交流拠点形成に向けての交流意向書の締結について
委員長	今回の報告は、将来の子ども達に大きな影響を与えるであろう（国際交流実施における）交流意向書を、中国、アメリカにて締結したということでしょうが、教育長の取組みには、アメリカ式に「コングラチュレーション」と申し上げたく、大変素晴らしいと思います。 次世代に私達の思いを伝えていくということは、何十年後かに必ずやそれが大きな意味を持つてくるのではないのでしょうか。 御質疑ございますか。
中野委員	今回の報告を聞き大変嬉しく思う。 世の中は過渡期に入っており、ITの時代、そしてグローバル化した時代となった今は、起こること全てが一瞬にして世界中に伝わる。また、現在の若者は、特に男性が国内志向であるようで、女性の方が外に目を向けている（国外志向）と言われている。 そのような中で、時代の変化に対応出来るような人材、そして国際交流を通して友好的に付き合うことのできる教育が大変重要であると思う。 ご承知の通り領土問題を含め、ナショナリズムの台頭かとも思われるような事もあるが、このようなことは二度とあってはならない。戦争に結びつくようなことはあってはならない。平和的な話し合いにより、何でも解決できるような関係で、文化面で強く結びつくことは大変素晴らしいことだと思

	<p>う。そして、相手の国のことを理解できるような教育を強く推し進めなければいけない。これは日本だけではなく、当然相手の国もそうあるべきだと思う。</p> <p>今回は中国とアメリカと交流意向書について締結したのだが、近隣諸国である韓国も候補に挙げてはどうか。お互いにらみ合いをするようなこともあるので、多様な問題が解決できるような人間関係を構築するためにも、このような若者達の交流が重要である。</p> <p>知識や、思考力を身につけるということだけではなく、心の結びつきに繋がるような教育にして頂きたい。そういう意味では、(今回の取組みは)大変大きな前進であると思う。</p>
教育長	<p>英語立県沖縄戦略推進事業について少し補足させていただきますと、今年からスタートしています「沖縄21世紀ビジョン」で、めざすべき将来像として掲げられた「世界に開かれた交流と共生の島」や「多様な能力を発揮し未来を拓く島」を推進するための具体的施策として「英語立県沖縄」構想を推進しています。主たる目的である国際社会で主体的に活躍できる人材の育成に向け「交流と体験」をキーワードに諸事業を企画立案しているところです。その中では、特に(1)生徒に求められる英語力について達成状況を把握・検証するために英語力の指標構築を図ること(2)グローバルな教育先進地域づくりのために国内外に国際交流拠点を形成し、相互交流を図ること等を推進しています。</p> <p>特に21世紀はアジアの時代と言われています。知事もアジアを重視した国際交流拠点の形成に強い関心を持っていらっしゃると思いますので、ご提言の韓国についても検討させて頂きたいと思います。</p>
委員長	<p>久々に夢のある話を聞き、大変勇気付けられました。</p> <p>他にございませんか。</p>
新垣委員	<p>今、国際交流と言っても多様な種類があり、県のPTA連合会でも台湾、以前は中国にも派遣している。</p> <p>今回の交流については高校生を中心としているのか、人数はどの程度を想定しているのか教えて頂きたい。</p>
教育長	<p>本事業は一括交付金を活用した事業であります。大まかに申し上げますと(1)高校生等を対象とした1年間の長期留学事業、(2)高校生を対象とした2週間から3週間程度の短期研修事業がございます。今年度は一括交付金の内示が遅れたため現在、担当課では学校現場へ募集業務が円滑に遂行できるよう、取り組んでいるところでございます。</p>
委員長	<p>当事業の実施は、長期的な視野に立ち、人間を教育するという意味では将来、必ずや大きな意味を持つと思います。</p>

	他にございませんか。
安里委員	<p>大城教育長が就任されて、英語教育に力を入られている中での今回の報告はとても嬉しく思う。しかし、このような交流事業を実施することが目的なのではなく、やはり国際性に富んだ素晴らしい人材を育成することが目的であると思うので、同様の交流事業について他都道府県の先行的な事例を参考にし、成功事例と失敗事例を検証しながら、プログラムの内容を組み立てて頂きたい。</p> <p>また、中野委員の発言と重なる部分があるかもしれないが、最近全国の経済紙でも沖縄の持つ可能性について取り上げられている。特に3.11の東日本大震災以降、製造業が海外から沖縄にシフトしているという話や、ANAのハブ空港のおかげで沖縄の取り扱い貨物量も大きく増えて、この先国際感覚を兼ね備えたビジネスマンの需要が増加すると予測されている。</p> <p>そのような時代には、今回のような取組みが必ず生きてくると考えるが、活躍出来る人材が皆県外の人、外国の人とならないように、やはり一人でも多くの子ども達に英語教育の重要性、あるいは外国の人と話す楽しさを与えていくという事が求められている。</p> <p>明るい未来のためにも、しっかりと事業を継続、推進頂きたい。</p>
委員長	このような話を聞きますと、沖縄は他県と比較してもかなり先駆的な取組みが行われているのでしょうか。
教育長	国際性豊かな人材育成は本県の大きな課題であります。特に教育分野における役割は大変、大きなものがありますので、これまでも高校生等を中心に多くの高校生が欧米諸国等を中心に留学してきたのは本県の特徴かと思いません。
委員長	そうですか、今後も他県の状況等情報を入れ教育内容について検討しつつ、国内で一番英語教育に力を入れて頂きたいと思います。
教育長	<p>文部科学省のデータでは、最近の若者の49%が海外に出たがらないと言われております。「グローバル化」と「内向き」ということが日本国内で大きな課題となっております。従って、国も施策上、若い方々を積極的に海外に行かせるような事業を検討、実施しております。私どもも、時代の潮流に乗りながら各種事業を展開しているということでございます。</p> <p>また、「交流と体験」をキーワードにしており、必ずしも海外に限定しているわけではございません。沖縄県内でも今年9月に開学する大学院大学等と交流を図る考えでありますし、より多くの子ども達に「交流と体験」を経験してもらう中で、現代社会の特徴としてあげられている人間関係の希薄化、あるいは規範意識等を再構築していきたいと考えております。そのような視点から、このような事業を展開しているのご理解頂ければと思います。</p>

宮城委員	交流の内容はこれから検討するのか。
教育長	具体的には、留学というのは三ヶ月以上のことを言い、それ未満の場合は研修という言い方になります。私達は、その両方(留学・研修)を検討しているところです。やはり予算との兼ね合いになりますが、長期留学は一年を、短期研修は二週間、三週間を想定しております。また、関係国とは両方どちらでも対応出来るような意向書を締結しております。
宮城委員	(資料2頁)「2 事項の説明」にある、(1)、(2)にある中国の高校については、これは英語で授業をしているのか。
教育長	英語は世界共通語であるという認識が必要です。中国においても英語で授業を展開している高校もありますが、英語や母国語の中国語を使いながら高校教育分野における専門性を構築していくということも「交流と体験」を通して可能であると考えています。
宮城委員	個人的な見解であるが、高校時代に英語を勉強している友人が、大学も英語関係の学科に進学し、英語を日常的に使えるまでになったのにも関わらず沖縄県内で就職先を見つけることが出来なかった。今と昔とでは社会の状況も異なっているとは思いますが、せっかく沖縄県がバックアップして国際交流を推進し、子ども達に交流・体験をさせるということであるので、この学びが活かされるように県内での受け入れ体制を整備して頂きたい。 留学している方もこれまで数多くいるので、その点について沖縄県が主体的になって取り組むにはきちんとアフターケアも念頭に置き考えて欲しい。
教育長	グローバル社会で通用する人材を育成することが世界的な競争と共生が進む現代社会において必要であります。また、離島県、島しょ県の沖縄が国際競争力を高めていく上で人材戦略上の重要課題であると認識しています。そのような状況を踏まえながら「英語立県沖縄」構想を推進し、本県の人材戦略上の重要課題の解決のために教育委員会として取り組んでいきたいと考えています。
宮城委員	語学に秀でた方は、沖縄で就職せずに海外就職されるケースが多く、現地で定住している。そのような方々が増えているのも良いかと思うが、やはり沖縄で頑張りたいという人たちが沖縄で活躍出来るような体制作りを整えて欲しい。
委員長	そうですね、そのような方々は沖縄ファンとして、また県外、国外で活躍している方は側面的に(沖縄を)支援していくといったケースが増えていけば益々良いのではないのでしょうか。 私の友人の娘さんがアメリカへ留学し、そのまま現地で結婚し生活していたのですが、今は大学院大学で学長の秘書をしているという話がありまし

	<p>た。この事例のように、今後は沖縄の若者たちが世界へ出て各地で働いたり、県内へ戻って働いたり、そのような意味でも国際交流が出来る時代となります。今回の交流事業は若者達の国際的な感覚を養う上ではとても大事な取組みでありますので、教育長にはぜひ頑張って頂きたいと思います。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>(しばし間があり)</p> <p>それでは、報告2について説明をお願いします。</p>
教育長	<p>(教育長報告2の説明)</p> <p>・平成23年度県立高等学校中途退学者数等について</p>
委員長	御質疑ございますか。
安里委員	<p>中途退学者が増加とあるが、千人近い子ども達が辞めているという現状には大変驚いているし、私達も真剣に考えていかなければならない。</p> <p>(資料3頁)(2)には、県立高校の事由別中途退学率が記載されているが「就職希望」という理由についても、就職が決まってから辞めるのではなく、学校が嫌になって辞めていくということも有り得るので、そのような子ども達が出ないように(3)に掲げられている対策について取り組んで頂きたい。やはり理想というのは中途退学者が限りなく0(ゼロ)に近い教育環境であると思うので、ぜひそれに向かってしっかりと取り組んで頂きたい。</p>
中野委員	<p>中途退学者については20年程前から、全国ワースト1位ということで問題視されている。(中途退学者数が)千人近い数字であるというのは、高校1校分にあたる生徒が辞めているということで非常に残念である。</p> <p>沖縄県が全国ワースト1位であったという事実の確認も含めて、過去20年間の沖縄県と他県と比較したデータはあるか。</p>
県立課長	<p>ございます。平成23年度はまだ公表されておりませんが、平成22年度を見てみますと、(中途退学者数の割合は)沖縄は1.8%、全国は1.6%となっております。平成21年度は沖縄2.0%、全国1.7%、平成20年度は沖縄2.0%、全国2.0%と同率となっております。</p> <p>沖縄県における中途退学者数は平成14年度は1,640名で3%台を記録しておりましたが、翌年度から進級規程の弾力化を図り、それと同時に高等学校生徒就学支援センターを活用したため、平成15年度は1ポイント改善し、1,090名、2%台に落ち着いております。徐々に全国との差は縮まりつつあります。</p>
中野委員	(3)今後の対策にある「高等学校生徒就学支援センターの役割」とはどのようなものを指すのか。
県立課長	高等学校生徒就学支援センターは泊高等学校にございまして、「定期面接・家庭訪問・電話相談」の3つの活動を主としております。

	<p>センターでは、訪れた生徒の現在の心境や就学状況、就職希望の有無を確認したり、生徒自身がカウンセリングを通して自分の在り方、生き方を考える時間を持てるよう、将来に対する夢や希望が持てるような支援をしております。具体的には前在籍校に戻る機会の提供や、希望する学校への転入、また転入に際し、高校の定時制、通信制課程の体験等も実施しております。</p> <p>現在、センターには555名が在籍しておりまして、転学による異動が45名となっております。残念ながら退学者も139名出ており、約二割強の生徒が退学しておりますが、他の生徒においては本人が希望するところへ向かっている状況でございます。</p>
中野委員	センターに携わっている職員は何名か。
県立課長	手元に資料がありませんので、詳細はお答えできませんが、10名以内になります。
中野委員	(平成14年から15年にかけては)600名近く中途退学者が減少しており、対応は素晴らしいものであったが、そろそろ対策に手を加える時期ではないかと思う。そのような意味でも対策強化に向けて検討頂ければありがたい。
新垣委員	中途退学者数の学年別内訳、比率が大きい学年を教えて欲しい。
県立課長	中途退学者は1年生と2年生を合わせて約75%を占めております。このうち、1年生が37.4%、2年生が33.2%、学年制を取っていない全日制高校において、1年次、2年次で退学した生徒が約5%となっております。このような状況を踏まえすと、やはり中高の連携を強化し、進路指導の充実、改善を図り、不本意入学等を解消する必要があると考えております。
委員長	<p>全国と比較すると未だ中途退学者が多いけれども、その数字が努力によって改善し、全国平均との差は縮まっているということでしょうか。</p> <p>子ども達が学ぶ意欲を保てるような状況を何とか支援していかなければなりません。</p> <p>他にございませんか。</p> <p>(しばし間があり)</p> <p>それでは、報告3について説明をお願いします。</p>
教育長	<p>(教育長報告3の説明)</p> <p>・平成24年度全国高等学校総合体育大会について</p>
保体課長	<p>(5)講評と関連しまして、これから開始される競泳におきまして、普天間高校の田中瑞穂さんが、昨年度の大会で2年生ながら7位に入賞しております。今年度の九州大会では優勝しており、今大会でも上位入賞の期待が懸かっております。</p> <p>その他の生徒におきましても、沖縄インターハイ開催を経験した最後の学年が今の三年生にあたりますが、やはり当時の(沖縄県勢の)活躍を目の当</p>

	<p>たりにした選手達ですので勢いがあり、優秀な成績を収めてくれたと評価しております。</p>
委員長	<p>かなり得意部門がはっきりとしてきた印象も受けますが、かつての沖縄のお家芸であったボクシングはどのような状況でしょうか。</p>
保体課長	<p>昨年度は決勝まで進みましたが、ボクシングは選手層に多少波がございまして、現在はインターハイにおける強化選手が抜けている状態です。ですが、これから新たに始まる、始動するという意味ではボクシングに期待しております。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。 学力ではないのですが、今回の結果は採点しますと何位ぐらいと位置づけられるのでしょうか。</p>
保体課長	<p>インターハイは県対抗ではなく学校対抗ですが、8位以内の入賞を果たしたということは、次の国民体育大会（以下、国体）に繋がるということでございます。 国体は都道府県対抗となっておりますので、8位以内は得点が加算されます。ですので、今回の報告においても、国体における得点加算圏内に入賞の可能性のある8位以内の競技種目について抜粋し載せてございます。また競技人数が7名以上の団体種目においては、優勝すると62点という高得点が加算されますが、個人での優勝は参加点1点を含む9点の加算となります。ですので、ソフトボール等の人数の多い競技種目で優勝すると上位入賞の可能性が高くなります。</p>
中野委員	<p>ハンドボールは沖縄県の得意なスポーツだと考えているが、今回は準優勝となっている。決勝戦の様子はどうだったのか、優勝する可能性もあったのか。</p>
保体課長	<p>はい、ございました。優勝は広島県の高校だったのですが、そのチームには昨年の広島国体における強化選手が多数在籍しており、やはり資金的にも強化された県はレベルも高くなるため、それが敗因であったと報告を受けております。しかし、今回の件を除いても、沖縄のハンドボールはベスト4以内の実力はあると評価されております。</p>
中野委員	<p>ウェイトリフティング等も含めて、ぜひ沖縄県の良さは活かして頂きたい。</p>
保体課長	<p>はい。私自身レスリング種目に期待する部分がございましたので、決勝戦の会場にも直に足を運んだのですが、結果としては5位でございました。相手方は霞ヶ浦というところでしたが、この試合に関しては運がなかったように見受けられました。 オリンピックでもありましたように、同点の場合はボールピックアップ</p>

	<p>(赤、青どちらかのボールを選ぶ)により、試合着と同じボールを選んだ選手を勝者とし、攻撃権を与えます。今回は4名が同点となり、うち1名が攻撃権を得ましたが、残り3名は全て相手方に攻撃権が与えられたために、4対3で敗退してしまいました。しかし、個人ではオリンピック出場可能性のある生徒も2名程いるという評価を受けておりますので、今後、期待出来る種目ではないかと思えます。</p>
安里委員	<p>参加競技が、29競技中27競技とあるが、参加していない残り2種目を教えて教えて欲しい。</p>
保体課長	<p>ホッケーと登山になります。ホッケーは九州予選で勝利しないと出場できないことから参加しておりませんが、登山においては地形柄、沖縄には山がありませんので参加しておりません。沖縄で開催されました高校総体の際にも登山競技は鹿児島県での開催となっております。</p>
委員長	<p>他にございませんか。 (しばし間があり) それでは、報告4について説明をお願いします。</p>
教育長	<p>(教育長報告4の説明) ・沖縄県社会教育関係団体等連絡会による市町村教育委員会訪問について</p>
学振課長	<p>補足説明でございます。前回の教育委員会会議において、小中高生が主体となった「深夜はいかい防止」「未成年者飲酒防止」に向けた朝の一斉行動について報告がございましたが、今回は、社会教育の立場から当行動との連携、取組みについてご報告させて頂きました。</p> <p>ここで重要となるキーワードが、「学社融合」「点から面へ」、そして常に教育において大事な、「関わる」ことや、「声掛け」でございます。この言葉については県警サポートセンター所長からもお話がありましたし、また「継続すること」が大事であろうと捉え、生涯学習振興課では社会教育団体13団体と連携し取り組んで参りました。</p> <p>取組み自体は昨年10月頃から始動しておりまして、CGG運動の啓発のために、全13団体を約3団体ごとに割り振り、担当班長と班員とを合わせ、計5名ほどで市町村を訪問してまいりました。今年は特に公安委員長の強い声掛けもありまして、対策を強化してございます。</p> <p>資料にあります「おきなわ地域教育の日」は、地域との関わりが子ども達に不足しているということで、毎月第3土曜日を活動日と定めておりますが、これは平成21年度のうるま市の事件を契機として、平成22年度より設けられたものでございます。活動内容としましては、資料7頁にあります年間計画に示されておりますが、例えば5月の地域行事にはハーリー等も予定されているようです。このような年間計画を作成し活動している市町村は、現</p>

	<p>在積極的に取組みを行っている金武町を含め、11市町村となっております。</p> <p>また、同頁の(3)について補足致します。</p> <p>の、第3日曜日(家庭の日)における学校施設の利用制限についてですが、小学校の場合はスポーツ少年団等が活動しており、外部コーチが多いため、どうしても休日の使用になり、時間帯も19時から20時頃までになったりと徹底することが難しい現状がございます。</p> <p>については、婦人会等が弱体化しているという要因もございます。</p> <p>特に心を動かされた事案が になりまして、これは昨年に八重瀬町で起こった問題を契機としたものですが、現在刑務所や少年院に入っている子ども達が社会に出てきた時のサポート体制を、補助金を受け、整備した独自の事例でございます。このようなことも含め、子どもは県全体で青少年の豊かな心を育てていこうということで、取組みを進めております。</p>
委員長	御質疑ございますか。
新垣委員	<p>C G G運動は平成16年から継続して実施されており、小中学校と地域が一体となる、とても素晴らしい運動である。私自身もP T A活動をしている時に、自治会や市町村の職員と共に参加したが、企業側とは別日程であったため、運動中は企業の顔が見えない状態であった。もちろん企業によっては独自に朝の挨拶運動等を推進していることは承知しているが、C G G運動では子ども達と触れ合う時間もあるので、企業の方にもぜひ同じ日に参加頂きたい。また、今は人間関係が希薄化しているというが、C G G運動には地域の方々も大勢参加される。この運動をきっかけとして自治会活動等に参加される方もいるので、ぜひ今後も継続して頂きたい活動である。</p>
学振課長	<p>今年のC G G運動は、12月16日の第3日曜日「家庭の日」に開催を予定しております。昨年度は22万人の参加を頂きましたが、このような運動は全県民総ぐるみで活動する事が大事ですので、今後のC G G運動においても常に20万人以上の方に参加頂くことを目標としたいと考えております。また、新垣委員もおっしゃったように、今はマスコミ等も含めて53団体が加入しておりますが、今後は地域の企業への広報も行い、子ども達を大事に育てるという意識の下に各団体を一つに束ね、そのような組織作りを市町村にも広げ連携して取り組んで参りたいと思います。</p>
新垣委員	<p>ここにいる皆さんも資料に定められている日について意識されているか。私達みんな地域を活性化しないといけないし、子どもを育まないといけない。1ヶ月のうち、3日間(「少年を守る日(第3金曜日)」、「おきなわ地域教育の日(第3土曜日)」、「家庭の日(第3日曜日)」)はぜひ皆一緒に行動して頂きたいと思う。</p>
委員長	他にございませんか。

	<p>(しばし間があり)</p> <p>それでは、議事に入ります。本日は議案が1件となっておりますが、この議案第1号は、人事案件となっておりますので非公開としたいと思いますがよろしいでしょうか。</p>
各委員	異議なし。
委員長	<p>このとおり決定します。</p> <p>休憩します。</p> <p>(以下は非公開部分のため省略します)</p>